

## 気候情報

### 2009年7月の日本の天候

- 北日本から西日本にかけて寡照
- 北日本で記録的な多雨
- 「平成21年7月中国・九州北部豪雨」の発生など各地で大雨

#### 7月の天気概況

梅雨前線が本州付近におおむね停滞し、また、北日本では気圧の谷の影響を受けやすかったため、北日本から西日本にかけては曇りや雨の日が多かった。このため北日本から西日本にかけては降水量が多く、日照時間が少なかった。北日本太平洋側では月降水量が7月の最も多い記録（地域平均の統計を取り始めた1946年以降）を更新し、北日本日本海側と西日本日本海側では月間日照時間が7月としては最も少ない値となった。

また、北日本から西日本にかけては、前線や低気圧および湿った気流の影響により各地で大雨が降った。中でも19日から26日にかけては、日本海から中国・九州北部地方に位置した梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が断続的に流れ込んで前線の活動が非常に活発になったため、局地的に1時間100mmを超える猛烈な雨が降り、16のアメダス観測所で総雨量500mm以上を記録する豪雨が中国・九州北部地方で発生した。一方、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

気温は、北日本では前半は平年を上回り、後半は寒気やオホーツク海高気圧の影響により平年を下回った。東日本から沖縄・奄美にかけては平年を上回る期間が長かったが、月のはじめは西日本と沖縄・奄美で、下旬は東・西日本で、それぞれ寒気や曇雨天の影響により一時的に平年を下回った。

**上旬：**北日本から西日本にかけては、前線や低気圧および寒気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった所もあった。沖縄・奄美では中頃に前線の影響で雨の日もあったが、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

**中旬：**北日本は低気圧が次々に通過したため雨の降る日が多く、大雨となった所もあった。東・西日本では、中頃は太平洋側を中心に晴れたが、はじめと終わりは梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨となり、大雨となった所もあった。沖縄・奄美は太平洋高気圧に覆われておおむね晴れた。

**下旬：**前線が本州付近に停滞したため北日本から西日本にかけては曇りや雨の日が多く、九州北部と中国地方では豪雨となるなど、各地で大雨となった。また、関東地方では竜巻による被害が発生した。沖縄・奄美は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

#### 7月の気候統計

**月平均気温：**沖縄・奄美で高かった。一方、北日本では低く、北海道では平年を1℃以上下回ったところがあった。東日本と西日本では平年並だった。

**月降水量：**北日本でかなり多く、東日本日本海側と西日本で多かった。これらの地域では平年の170%を上回ったところがあり、北海道では平年の300%を上回ったところもあった。一方、沖縄・奄美では少なく、東日本太平洋側では平年並だった。

**月間日照時間：**北日本日本海側、東日本、西日本でかなり少なく、北日本太平洋側で少なかった。特に北日本から西日本にかけての日本海側では、平年の60%未満となったところが多かった。沖縄・奄美では平年並だった。

(気象庁観測部統計室)

#### 7月の記録（1位更新のみ）

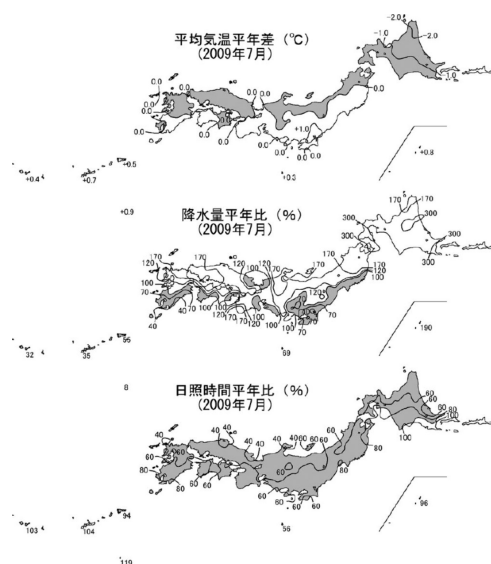
##### ・月降水量多い方から（mm）

雄武 270.0 網走 209.5 釧路 278.5  
根室 336.5 苫小牧 371.0 江差 380.5  
紋別 248.0 むつ 375.5 呉 594.0  
山口 758.0

##### ・月間日照時間少ない方から（時間）

寿都 86.4 高田 65.2 輪島 59.1  
勝浦 68.8 石廊崎 82.2 岐阜 83.6  
舞鶴 55.3 姫路 91.6 津山 73.8  
福山 110.5 雲仙岳 43.8

#### 2009年7月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。